

障害者支援施設 鹿野第二かちみ園

1 基本方針

様々な障がい特性を理解し、その特性に対する専門性を高めるとともに、一人ひとりの個性を尊重することで、利用者が健やかにそして自らの意思をもって自分らしい生活を営むことができるように援助していく。

また、社会参加を促進するとともに、地域社会に開かれた施設運営を目指す。

2 利用者の状況（令和6年3月31日現在）

（1）入所者状況

（人）

利用人数		前年度末利用者数	令和5年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数
区分	定員		入所人員	退所人員	退所理由別								
					地域移行		家庭復帰	施設移管	契約解除(入院等)	死亡			
				GH	アパート等								
生活介護	60	68	0	5	0	0	0	3	0	2	15,676	96.8%	63
施設入所支援	60	59	0	5	0	0	0	3	0	2	20,228	92.1%	54
4 年 間 繰 越	生活介護	60	70	2	4	0	0	0	1	2	16,119	99.9%	68
	施設入所支援	60	60	2	3	0	0	0	1	2	21,004	95.9%	59

（2）障害支援区分

①生活介護

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	1	3	11	20	35
女性	0	0	0	0	2	12	14	28
計	0	0	0	1	5	23	34	63

②施設入所支援

（人）

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	1	2	10	18	31
女性	0	0	0	0	0	9	14	23
計	0	0	0	1	2	19	32	54

3 事業の実施状況

（1）権利擁護と意思決定支援

- ・成年後見制度については、5年度3名が後見人の選任を受けた。（合計10名）。
- ・意思決定支援については、意思の表出ができる方には様々な情報を提供し、複数の選択肢の中から自己決定に導いていくことに努めた。

言語によるコミュニケーションが困難な方については、その方の生活史、病歴、性向、強み、弱み、好きなこと、苦手なことなどを把握した上で、応用行動分析、絵カード交換式コミュニケーションシステム、コミュニケーションカード、選択カードなどの手法を使うことで意思の推定に取り組んだ。いずれも本人の意思を個別支援計画に盛り込むようにした。

- ・権利擁護・虐待防止研修の実施のほか、虐待防止策として、「虐待防止チェックシート」の年2回実施、利用者からの定期・随時の困りごとの聞き取り、支援困難事例の勉強会、「不適切支援記録表」の活用、管理的立場の複数職員による施設内巡回、職員のメンタルヘルス推進体制の構築などを実施した。

(2) 利用者支援の専門性の向上

ア 行動障がいのある方への専門的支援

毎月1回行動障がい部会によるスーパービジョンを開催するとともに、3ヶ月に1回外部のスーパーバイザーを招聘し、行動障がいがある方の不適切行動の軽減や自立に向けた支援方法の検討を行った。

イ 身体障がいのある方やフレイル状態の方への専門的支援

・理学療法士がリハビリテーション計画を作成し、エアロバイク、振動マシンなどの運動器具を使用した個々に応じた機能訓練、集団体操、生活リハビリ、温熱療法等を行い、随時見直ししながら利用者の機能低下防止やフレイル予防に取り組んだ。

・また、摂食嚥下機能の低下防止のため、定期的に外部の言語聴覚士に嚥下機能の評価を依頼し、適切な食事形態、姿勢の保ち方、健口体操等の助言をいただき実践している。

ウ 精神障がいのある方への専門的支援

定期的な精神科医の往診時に医療相談しながら、その人の障がい特性や周辺症状に応じた支援に努めた。

また、必要に応じて多職種交えて検討会を行い、共通認識・統一支援に努めた。

エ その他の支援（アート活動）

・日々の活動で作成した作品を年2回会場を変えて展示した。とりぎん文化会館での「いろいろ作品展（8/24～9/1）」は約400名の来場者があった。

また、中電ふれあいホールでも作品展（2/16～20）を開催し、たくさんの励ましのコメントや逆に勇気づけられたというコメントなどもたくさんいただいた。

・昨年に続き、フクシ×アートWEEKs2023（10/28～11/26）に参画し、障がい者アートをとおして鳥取駅前商店街の活性化に協力した。

・また、全国で初となる鳥取県立バリアフリー美術館（バーチャル美術館）へ複数の作品を提供し、障がい者アートをとおして障がい者の理解に努めた。

・更に、日本デザイナー協会山陰支部を中心に構成される「山陰ご当地フォントプロジェクト」事業にも参画し、3月には当園利用者が作成した絵画をデザイナーが加工した作品6点が県庁2階に常設展示されることとなった。

・2月には「県民が気軽に障がい者アートを楽しめるアートギャラリーを県の認定ギャラリーとする『鳥取県はーとふるアートギャラリー』」に当園内に設けた「いろいろ小径ギャラリー」が鳥取県の認定を受けることとなった。

(3) 職員の専門性の向上とメンタルヘルスの推進

ア OJTの推進

園内研修では、定期的なスーパービジョンのほか、「権利擁護・虐待防止（身体拘束含む）」、「感染症予防（PPEの正しい着脱、ゾーニング等含む）」、「食中毒予防」、「リスクマネジメント」、「救急救命講習」、「メンタルヘルスセルフ・ラインケア」、「ハラスメント防止」、「てんかん」、「個別支援計画（意思決定支援含む）」等に関する研修を実施。

イ Off-JTの推進

「虐待防止研修」「強度行動障がい支援者養成研修」等、専門性に直結するような研修を優先しながら可能な限り参加した。

また、階層別研修、職種別研修など職員の立ち位置に相応しい研修への参加を心掛けた。

ウ SDSの推進

国家資格取得の推奨に努め各種情報を提供し取得を促している（3名取組中）。

ほかにミュージックケア初級受講者1名。

エ チューター制度の推進

新規採用者4名を対象にチューター制度実施。

(4) 経営改善・基盤の確立

・年度当初からの職員2名欠員に加え、中途退職や産・育休職員が続き、最大5名の欠員もあったが、新規採用予定者の前倒し採用や多職種協働により支援に支障が無いように努めた。

今後も1.7：1配置の維持を目指す。

・生活介護（60名定員）96.8% ・施設入所支援（60名定員）92.1%

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
(実績なし)			

(2) ボランティアの受入実績

鹿野町日赤奉仕団（繕い物）、職員OB（草刈り） [延べ56人]

5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 3名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	4	17	12	131
日中一時支援事業	0	0	0	0